

チェコ産のテクタイト (0.002~0.01wt%) に比較しても高い。

・ Australasian 分布域に存在する全てのテクタイトは、単一の衝突期限を持つことが支持されている (Koeberal,1992)。水などの揮発成分に富み、化学的に不均質であり、大きさが数センチに及び形状も様々であること…普通のテクタイトに比べ低温で熔融し、空気中を低速で飛行し形成したと考えられる。

・ タイ、ラオス、カンボジア、ベトナムなどで…テクタイト分布域を示した。

* 引用「中国海南島産テクタイトの希ガス組成と含水量について」より

・ 隕石の中には地球今日の山西ガラス質火山岩に似たものが合ってテクタイトと呼ばれる。その CaO 含有率は 2.21, CaO/SiO₂比 0.028 と報告されている。

・ カルシウムはいん石全体を通じて石質部に含まれ、ケイ酸塩、とくに灰長石として含まれることが多い。隕石石質部の中に含まれる化学成分の中の Cio₂ (塩素) に次いで多いのは MgO で、ついで FeO も多い。

* 引用「自然界におけるカルシウム」福尾券一 より

・ オーストララシアンテクタイトは上部近く物質とマフィック岩石 (* マグネシウム系岩石など) の混合線上にプロットされる。オーストララシアンテクタイトの Cr (クロム) 濃度が近く物質に比べて高い原因は、テクタイトの起源物質が地殻物質だけでなく、マフィック岩石の混入だと考えられる。

オーストララシアンテクタイトの Ir と Ru、Rh、Pd (イットリウム、ルテリウム、ロジウム、鉛) 間で正の相関が見られ、Ru/ir,Rh/Ir と Pd/Ir 比は鉄隕石 (IC) と同じであった。つまり、オーストララシアンテクタイトは鉄隕石の混入の可能性が考えられる。

* 引用「オーストララシアンテクタイト中での隕石成分の探索」首都大学東京大学院 理工学研究科 白井直樹 他

著作 ;

日本鉱物応用技術研究所

倉田 広勝

* 本文や画像を引用するときは「日本鉱物応用技術研究所より引用」と記載すること。